

令和 7 年度 世田谷区立希望丘小学校 学校関係者評価委員会報告書

世田谷区立希望丘小学校
学校関係者評価委員会
委員長 浦 五月

○回収率

児童 93% (5, 6 年生)、保護者 79% (1~6 年生)、地域 49% (回収 19、配布 39)

○評価方法

- ① 児童・保護者・地域のアンケートを実施した。評価は A [とても思う] B [思う] C [あまり思わない] D [思わない] E [わからない] の 5 段階とした。
- ② 児童アンケートは、教育委員会の方針に基づき 5・6 年生を対象として実施し、ウェブ調査方式を採用した。地域向けアンケートについては、ウェブ調査と紙媒体の両方式を併用し、回答しやすい環境を整えた。
- ③ 本年度は、世田谷区から提示された共通項目が 1 項目のみであったため、その他の評価項目はすべて本校が独自に設定した。
- ④ 評価項目が前年より少なくなったことから、本校では各項目を細分化して評価するのではなく、重点目標を中心に教育活動全体を整理した。具体的には、重点目標 1 「豊かな知力の育成」、重点目標 2 「豊かな人間性の育成」、重点目標 3 「健やかな身体の育成」の三つの視点に基づき、教育活動の状況を「成果」と「課題」に分類して評価を行った。

○総合所見

本校では、児童の学習意欲や学校生活への満足度が高い。特にあいさつや思いやりのある行動、学校行事への主体的な参加など、人間性の育成に関する成果があげられている。また、少人数指導は、学習理解の向上が見られ、保護者からも高い評価を得ている。さらに、安全教育や広報活動についても高い肯定率が示され、学校全体として安定した教育活動が展開されている。

一方で、読書習慣の定着や、地域との連携の見える化など、改善すべき課題も明らかとなった。また、学校行事や学校運営に関する地域評価には改善の余地があり、地域との連携強化は継続的な課題であり、次年度に向けて重点的に取り組む必要がある。

重点目標1 豊かな知力の育成

よく考え、工夫する子ども（探求心を持って主体的に学ぶ姿勢）

重点指導項目：探究的な学びの実現に向けた授業改善、タブレットの効果的な活用、創作活動・体験的な学習、基礎基本の確実な定着、読書活動の充実など

1 成果

児童の多くが学習に前向きであり、「学ぶことが楽しい」とする回答が高い。少人数指導や話し合い活動の充実により、学習理解の向上が見られ、保護者からも高い評価を得ている。また、学校生活全般への満足度も高く、学習環境が安定している。

2 課題

読書習慣の定着が不十分であり、児童の半数以上が「本を読んでいない」と回答している。授業における「考えることの楽しさ」も相対的に低く、主体的・対話的で深い学びの質にばらつきが見られる。学級差や個人差への対応が課題である。

重点目標2 豊かな人間性の育成

心の美しい子ども（親切、思いやり、言葉、礼儀）

重点指導項目：温かく美しい言葉遣い、挨拶の励行、相手の話を真剣に聞く、いじめの防止、助け合いの精神の浸透など。

1 成果

あいさつやルール遵守、思いやりのある行動など、基本的生活習慣が良好に定着している。地域からも児童の言葉遣いや態度が高く評価されており、学校文化として定着していることがうかがえる。

2 課題

保護者の評価では、生活指導の「見える化」が十分されていないことから、指導内容や成果の共有が課題である。また、地域の回答には「わからない」が一定数存在し、地域との接点が限定的であることが示唆される。言葉遣いの育成については、家庭との連携強化が求められる。

重点目標3 健やかな身体の育成

たくましくがんばりのきく子ども（心身の健康、苦難に負けないこころ）

重点指導項目：体力調査から課題を明確にした体育指導、一日一回は体を動かす機会の設定、保健指導・給食指導など。

1 成果

運動や体を動かすことを楽しむ児童が多く、食育に関する意識も高く、好き嫌いを克服しようとする姿勢が見られる。保護者からも運動習慣について肯定的な評価が得られている。

2 課題

運動が苦手な児童への支援が十分でない可能性があり、個人差への対応が課題である。